

東備西播定住自立圏域 J R 利用促進協議会 第 5 回総会 会議録

- 1 日 時 令和 7 年 8 月 7 日 (木) 10:00～10:45
2 場 所 赤穂市役所 2 階 204 会議室

3 出席者

(1) 会 員

長崎 信行	備前市長
牟禮 正稔	赤穂市長
梅田 修作	上郡町町長
西上 徳一	備前市議会議長
西川 浩司	赤穂市議会議長
河井 正人	上郡町議会議長
西角 友彰	備前商工会議所会頭 (代理)
目木 敏彦	赤穂商工会議所会頭
川畑 雅義	上郡町商工会会長 (代理)

オブザーバー

加藤 明	関西福祉大学学長
藤村 忠史	はくほう会医療専門学校 赤穂校校長
菊川 泰	赤穂高等学校校長
武田 由哉	上郡高等学校校長
西田 拓巳	相生産業高等学校校長

(2) 事務局及び各市町担当者

赤穂市：山内市長公室長、古谷企画政策課長、秋田企画係長、軀川主事
上郡町：深澤地域振興課長
備前市：下山交通政策課主事

4 会議の概要

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

(3) 出席者等紹介

(4) 報告事項

ア. 山陽本線・赤穂線の現状

イ. J R 西日本に対する要望について

ウ. J R 赤穂線・山陽本線インスタグラムフォトコンテスト 2025 について

(5) その他

(6) 閉 会

5 議事の概要

事務局

定刻より少し早いですが、おそろいになりましたので、ただいまから東備西播定住自立圏域ＪＲ利用促進協議会第５回総会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。

私は、本日の司会を務めます、赤穂市市長公室長の山内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の会議に傍聴の申し出がございます。

会議の傍聴につきましては、本協議会会議規程第２条で原則公開となっておりますが、出席委員の過半数の決定により非公開とすることができます。

本日の議事内容はお手元のとおりでございますので、会議の冒頭から傍聴を認めたいと考えておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは傍聴の方にお入りいただきます。

しばらくお待ちください。

それでは、開会にあたりまして、会長であります牟禮赤穂市長よりごあいさつを申し上げます。

牟禮会長

改めまして、皆さんおはようございます。

本日は大変お忙しい中、また久方ぶりの雨にも関わらず、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

この協議会は、令和４年３月に発足して以来、備前市、上郡町、そして赤穂市の２市１町で毎年ＪＲ西日本兵庫支社及び岡山支社に対しまして、要望をするなどの活動を行って参りました。

ご案内のとおり、昨日、ＪＲ西日本より輸送密度に係る資料が公表されまして、赤穂線の播州赤穂駅から長船駅間が、昨年に引き続き、２，０００人未満であったということがわかりました。

これまで、ＪＲの利用促進・利便性の向上についていろいろと活動して参りましたが、利便性の向上につきましては、東備西播定住自立圏の共生ビジョンの推進に必要不可欠だと考えております。

今後とも、ＪＲの利用促進を図るために、活動して参りたいと考えております。今年度は、備前市に事務局をお引き受けいただいて、フォトコンテストを実施することとなっております。

引き続き２市１町が力を合わせ、ＪＲの利用促進を図るとともにＪＲ利用者の増加により交流人口、関係人口の拡大や圏域全体の地域経済の活性化を図っていきたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

本日はＪＲ赤穂線・山陽本線の現状、昨年度の要望事項等について報告をさせていただきますこととしております。

皆様方には、何卒いろんな意見を出していただき、会議が円滑に進みますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単措辞ですけども、ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局

次に、次第3 出席者等紹介に移ります。

ご紹介につきましては、恐れ入りますが配付しております配席表により代えさせていただきます。

なお本日、所用のため備前緑陽高校の古城校長から欠席の旨、連絡をいただいております。また、備前商工会議所の寺尾会頭に代わり西角専務理事様、上郡町商工会の大崎会長に代わり川畑事務局長様に代理出席をいただいております。

それでは、ここからの議事進行は、会長にお願いしたいと思います。牟禮会長お願いいたします。

牟禮会長

それでは、ここから議長を務めさせていただきます。

皆様には、ご協力を賜りたいと思います。

次第4 報告事項に入ります。

(1) 山陽本線・赤穂線の現状につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局

まず本日お手元にお配りをいたしております資料の確認をお願いいたします。あらかじめ資料をお送りさせていただいておりますが、本日机上で配付させていただいております資料に基づきまして、ご報告をさせていただきます。

本日の資料は、次第、配席表、会員名簿、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、J R 赤穂線・山陽本線インスタグラムフォトコンテスト2025のチラシ、協議会規約並びに協議会会議規程、2024年度区間別平均通過人数（輸送密度）について、となっております。

それでは、山陽本線・赤穂線の現状についてご報告いたします。

お手元の資料1をお願いします。

令和3年以降の山陽本線、赤穂線における減便の経緯をまとめております。

資料に記載のとおり、令和3年10月に、山陽線において、概ね10時から15時台の姫路から上郡間の一部列車の運転取りやめがあり、赤穂線において、概ね10時から14時台の相生から播州赤穂間の一部列車の運転取りやめがありました。

その後も、令和4年3月、令和5年3月、5月にダイヤ見直しなどが行われ、沿線住民にとっても、利便性が損なわれる状況となっております。

こうした状況から、本協議会といたしまして、毎年J R 西日本に対する各市町村からの要望を取りまとめ、各支社にて支社長に直接要望をお伝えしております。

また、利用促進に向けた取組を継続的に実施していくことが必要であると考えます。

次に、資料2をお願いします。

こちらは、J R 西日本が毎年公表をしております、区間別平均通過人員（輸送密度）の推移です。

毎年8月にJ R より、前年度の輸送密度が公表されておりますが、今年は2024年の結果が、昨日6日に公表されたところです。

公表されました2024年度の値としましては、山陽線では、姫路から上郡間で24,996人。上郡から瀬戸間で8,591人となっております。赤穂線では、相生駅から～播州赤穂駅間で8,296人。播州赤穂から長船間で1,687人となっております。

コロナ禍前の２０１９年度と比べ、回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の数字には戻っておらず、赤穂線の播州赤穂駅から長船駅の区間についても、２０２４年度は前年度よりも減少している状況となっております。

次に資料３をお願いします。

JＲ駅別の１日あたりの乗車人数です。毎年３月末に兵庫県、岡山県が公表している統計年報の数字となります。

前回の協議会の後、岡山県から令和５年度の統計年報が公表されたことから、今回、備前市の令和５年の乗車人数を追加しております。

資料の中ほど、四角で囲っている部分は、備前市、赤穂市内の赤穂線の各駅の小計ですが、令和２年以降、乗車人数は増減を経て徐々に戻りつつあるように思われますが、コロナ禍以前の人数には戻っていない状況です。

また、この表の一番下、圏域全体としても、令和元年までの圏域合計は約１万１千人で推移しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和２年、令和３年は８千人台半ばまで落ち込みました。

令和４年度は行動制限が少し緩和され、乗車人数は改善しつつありますが、圏域全体としても、コロナ禍以前の人数には戻っていない状況です。

次に、駅舎をはじめとする周辺施設環境の現状について、資料はございませんが、口頭で説明させていただきます。

昨年１１月末に播州赤穂駅において、「みどりの窓口」の営業が終了し、新たに自動発券機の「みどりの発券機プラス」が設置されました。

インターホンを利用して、外部のオペレータとの会話を通して切符を購入するシステムですが、これまで駅員を介して対面で切符購入をしてきた方や、機器に不慣れな高齢者の方にとっても、利用に不安を感じられる方もあると思われます。

また、坂越駅では、昨年１２月より駅係員が終日不在となり、駅舎に設置されていたごみ箱も撤去されており、今後、こうした駅舎の施設の見直し、自動化が進められていくことで、沿線住民にとって、更なる利便性の低下が危惧されています。

続きまして、輸送密度についてです。

本日追加でお配りしております、別紙 ２０２４年度区間別平均通過人数（輸送密度）について、をご覧ください。

先ほど、資料２でご説明をいたしましたとおり、昨日、ＪＲ西日本より２０２４年度の輸送密度が公表されました。

こちらの公表において、２０２４年度の輸送密度が２，０００人を下回る線区として、今回、赤穂線の「播州赤穂駅～長船駅」の区間が対象となることが示されました。

輸送密度２，０００人という区分は、ＪＲ西日本が大量輸送という鉄道の特性が発揮できていない線区として区分しており、兵庫県内では、加古川線の西脇市～谷川区間や、姫新線の上月～津山区間など、既に４路線６線区について対象となっております。

２，０００人を下回る対象線区になりますと、今年の秋頃を目途に、ＪＲ西日本から対象線区の赤字額などの収支と、輸送密度の推移が公表され、ローカル線としてのあり方を検討する必要がある線区として位置付けをされることとなります。

この度の公表を受けまして、輸送密度２，０００人を下回る路線として、播州赤穂～長船の区間が対象区間となることについて、赤穂市の考え方を、資料の４にてお示しをしております。

戻っていただいて資料4をご確認お願いいたします。

J R西日本株式会社による輸送密度2,000人以下の路線の公表に対する赤穂市の考え方について、読み上げる形でご説明をさせていただきます。

J R西日本株式会社が輸送密度2,000人以下の路線という独自の基準に基づきまして、赤穂線、播州赤穂～長船間を公表したことについては誠に遺憾でございます。当該区間につきましては、令和2年度より、輸送密度2,000人を下回っておりましたが、これまでは、令和元年度、2019年度を基準に公表されていたことから、このタイミングでの開示基準の変更には大変驚いているところでございます。赤穂市では、赤穂線の利便性の向上と利用促進のため、駅周辺整備や駅舎内へのトイレの整備、主要駅でのパークアンドライドなどのハード面の利用環境の取組に加えまして、本市と備前市、上郡町などが構成員となった東備西播定住自立圏J R利用促進協議会によるフォトコンテスト、あこうDMO（一般社団法人あこう魅力発信基地）によります、観光発信など、住民への利用促進に向けたハード、ソフトにわたる様々な取組を行っているところでありまして、そのことは毎年、J R西日本株式会社への要望活動の中で説明しているところでございます。

そのような取組を進めている中におきまして、このたびの公表は地域住民に不安と失望を与えるものでございます。

コロナ禍以降、昼間の電車の間隔が30分から1時間になりまして、みどりの窓口が廃止され、無人駅の増加、ごみ箱の撤去など、利用者の利便性を全く省みない対応がとられてきたのも事実でございます。

公共交通は採算性だけで判断するものではなく、地域の重要な社会インフラであると同時に、2,000人という数字だけの判断ではなく、当該区間を跨って利用される方もおり、路線のネットワークという視点が重要であると考えます。

こうした沿線自治体や利用者の声に真摯に耳を傾けていただくよう強く要望するものでございます。

また、本市は東備西播定住自立圏域などと連携し、引き続き赤穂線の利用促進に取り組むとともに、今後、兵庫県及び岡山県とも連携しまして、一層の利用促進への検討を進めていくとしております。

以上でございます。

牟禮会長

事務局の説明は終わりました。

ただ今の報告事項について、ご意見、ご質問等ありますか。

西川委員

8月4日に知事との協議会、8月6日に兵庫県での地方議会の協議会の席で、J Rについてのお話もたくさん上がっておりました。

特に兵庫県の西側、岡山県との県境の地域の方の要望がかなり上がっていました。今回、兵庫県知事とゆっくりお話しをさせていただきまして、その中で、やはり知事も赤字ローカル線の問題は赤字路線を区切って考えるのではなく、都市部の黒字路線も含めて、J R西日本全体として考えるべきであると、しっかりと皆さんの前で意見を言っておられました。

私は、兵庫県市議会議長会の会長を今年度させていただいております。

8月19、20日には東京へ対国実行運動として要望にも行きます。県市議会議長会の要望として、29市全会一致で決まった案件があり、その部分に関しては赤穂線については入っておりませんが、国も予算時期でもあり、しっかりした要望を

持っていきたいと思っております。ぜひとも、この取組に関して2市1町だけでなく、色んな市町とも連携しながら、要望をしっかりとしていかなければ、人口がどんどん減っていく市町では、大変なことになると思います。

そして、今回、たつの市の山口議長が兵庫県議会の議長もされておりますので、いろいろお話をさせていただく中で、このこともしっかりと情報を伝えて参りました。県、国に対して、市議会議長会の会長としても、議会としてもしっかりと対応し、皆さんと心を1つにしてやっていきたいと思っております。

特に、資料の中にあつた、赤穂線の岡山方面の路線が2,000人を下回っているということですが、赤穂市や上郡町からも次代を担う子どもたちがたくさん通学で利用しておりますので、しっかりと考え、これから取り組んでいきたいと思っております。市長会の方でも要望をあげられていると思いますが、県市議会議長会としても、要望を上げておりますので、市長会の皆様とも連携しながら国要望に取り組んでまいりたいと考えております。

牟禮会長

ありがとうございます。

赤穂市の考え方を説明させていただきましたが、2市1町はもちろんのこと、兵庫県、岡山県、全体で取組を高めてまいりたいと思っております。

他にありませんか。

(特になし)

ないようでしたら、(1)山陽本線・赤穂線の現状についての報告はご了承いただいたものとさせていただきます。

続きまして、(2)JR西日本に対する要望について、を議題とさせていただきます。

事務局から説明をお願いします。

事務局

JR西日本に対する要望についてご説明いたします。

資料5をお願いします。

こちらは、前回の協議会におきましてご報告申し上げました、昨年度のJR西日本に対する要望書をまとめております。

要望項目としましては、8ページから9ページをお願いします。

1 山陽本線並びに赤穂線の利便性確保については、(1)朝夕の通勤・通学時間帯のダイヤの確保、(2)昼間時間帯のダイヤの復活、播州赤穂駅発着の新快速の運行について、(3)早朝・深夜の延伸についての運行、となっております。

2 地域の生活基盤の更なる向上については、(1)駅員の人員確保、(2)圏域内での各種整備に基づきます自治体との連携について要望を行いました。

今年度も、JR西日本の兵庫支社並びに岡山支社への要望を行ってまいります。

今年度の要望につきましても、今後、事務局を通じて要望内容の確認等をさせていただきたいと考えております。

以上です。

牟禮会長

ありがとうございます。

昨年度は、11月と12月に備前市と上郡町と一緒にJRの支社を訪れ、支社長

に要望を提出し、こちらの意向を伝えさせていただきました。

その結果については、どうですか。

事務局

J R岡山支社からは、1項目ずつのご要望等については協議させていただくということで、口頭で回答いただいております。

また兵庫支社につきましても、口頭で当日、回答をいただいております。

1の(1)の要望に対する回答としましては、朝夕のダイヤにつきましては、基本的に現状維持をさせていただきたいと回答をいただきました。また、昼間のダイヤについては、2021年度10月から、1時間に1本になったという状況でございますが、現状、席が余っているという状況もございまして、利用の増加はなかなか見込めないということで、ダイヤを戻すことは、なかなか難しいという回答でございました。

また播州赤穂方面への延伸につきましても、早朝深夜の利用は少ないため、延伸については難しく、人員の確保につきましては、先ほど申し上げました、順次、みどりの発券機プラス等への移行をされているという状況でございます。人員については、駅員が不在になる駅もございまして、しっかりサポートはしていきたいということで回答をいただいております。

牟禮会長

ただ今の報告事項について、ご意見、ご質問等ありますか。

梅田町長

今後の要望については、事務局がとりまとめていくということですが、現状を見ますと、JR西日本の合理化が進み、便数は維持させているものの、列車の編成が短くなっている等、住民から不満の声を聞いています。

特に朝7時31分に姫路発の電車がありますが、通学時間帯で多くの高校生が乗車されております。8時4分に上郡駅に着きますが、途中で満員になり高校生が非常に不便を感じております。

先日、高校生からも直接、私に要望がありました。以前は7両で運行していましたが、新車が導入された際に4両になり、最近では3両になり、満員のため痴漢などの被害が懸念されています。

J R西日本には、ただ単に乗車人数だけではなく、現状を自分たちでよく見ていただきたいと思います。ですので、要望をとりまとめる際には、そのようなことも盛り込みさせていただきたいと思いますが、学校の先生方からも、もしそのような声を聞いているのであれば、ぜひ共有させていただきたいと思います。

武田委員

先ほどの梅田町長のお話ですが、上郡高校の生徒は2便利用しております。いずれもダイヤ改正で6両が4両、4両が3両と車両が減っております。

事前にJ R西日本からはお話がなかったのですが、ダイヤ改正のときに、こうなりますということで、すでに決定した後で学校の方には連絡があり、その時はもうどうしようもありませんでした。

やはり、実際にその時間帯は、相生姫路方面から通学する生徒が多いですので、大変混雑している状況です。ですので、増便までは求めないとしても、その車両の増結をお願いできたらありがたいなと思っているところです。

牟禮会長

上郡町長、上郡高校の武田先生から、通学時間帯の現状についてお話がありまし

た。

要望の時期については、相手方のご都合もありますが、今のお話を聞くと、生徒さんが非常に大変な目に合われていることが分かりますので、緊急要望という形で、この会議が終わった後、調整させていただきたいと思います。

ほかにご意見はありませんか。

加藤委員 児童生徒が、学校選びの際に交通機関も関係します。そのようなことも付け加えるといいと思います。

牟禮会長 通学環境も整えなければ、なかなか選んでいただけないということは、そのとおりだと思います。

車両を増やすことは、緊急に要望していきたいと思います。

河井委員 9ページについてです。
パークアンドライドについてはどうですか。

事務局 昨年度に備前市で、今まで公共の駐車場だったところをパークアンドライドに整備をされたと伺っております。

河井委員 それはどのようなシステムですか。

事務局 自家用車を駐車し、公共交通機関に乗り換えて目的地へ向かうシステムのことで

牟禮会長 赤穂市の場合は、播州赤穂駅、坂越駅、有年駅に駐車場を整備しています。
通勤でJRを使われる方が家から車に乗ってきて、そこに駐車し、電車を利用するというシステムです。

河井委員 料金はどうですか。

事務局 備前片上駅は、24時間100円です。

牟禮会長 播州赤穂駅は500円です。
有年駅はどうですか。

事務局 400円です。

牟禮会長 建設コストと運営費がかかっていますので、料金はそれぞれ違います。

河井委員 姫新線が300万人を達成しましたが、新宮駅に駐車場を整備したことで、宍粟市の方は車で姫路方面に行っていた方が姫新線を利用するようになったと聞きました。

駐車場のキャンペーンのようなものがあれば、ガソリン代も高いですし、利用者が増えるのではないかと思います。

牟禮会長 他にありませんか。

西上委員 備前市の場合は、船戸と寒河を整備し、1日1000円です。

牟禮会長 ほかにございませんか。
ないようでしたら、(2) J R 西日本に対する要望についてはご了承いただいたものとさせていただきます。
続きまして、(3) J R 赤穂線・山陽本線インスタグラムフォトコンテスト2025について、を議題とさせていただきます。
事務局から説明をお願いします。

事務局 J R 赤穂線・山陽本線インスタグラムフォトコンテスト2025についてご説明いたします。
資料12ページをご覧ください、
J R 赤穂線・山陽本線の利用促進を図るため、昨年度より開催しております、インスタグラムによるフォトコンテストを今年度も開催を予定しております。
J R を利用した際の写真をインスタグラムで投稿をしていただくことで、J R の利用促進につなげることを目的として実施いたします。
募集期間は9月1日～11月30日までとし、J R 赤穂線の坂越駅～香登駅の間、J R 山陽本線の有年駅～吉永駅の間の、車内や車窓、駅構内の風景をテーマとした写真を対象としております。
入賞につきましては、記載のとおり、グランプリ1点、準グランプリ3点、入選5点を選定しまして、各賞品を贈呈するほか、グランプリ受賞作品は、利用促進に向けた啓発用ポスターなどへの掲載を予定しております。

牟禮会長 ありがとうございます。
ただ今の説明に対し、何か質問等はございますか。

藤村委員 どのくらいの方が応募されますか。

事務局 2024年度は、115件の応募がありました。

牟禮会長 どのように利用促進を図ろうかということで、昨年にフォトコンテストを開催しましたが、応募数はそれほど多くはありませんでした。色んな機会をとらえ、SNSを含めて情報発信をし、応募していただくことにより、乗降客を増やすことが目的ですので、今年度は件数を増やしたいです。
応募資格については、どうですか。高校生も応募できますか。

事務局 高校生も可能です。

牟禮会長 通学生は乗降客数の増には繋がりませんが、機運を高めていくということで、各学校でもPRをお願いします。また、休み期間中に別の場所まで乗っていただき、コンテストに応募していただければと思います。

他にありませんか。

(特になし)

ないようですので、(3) J R 赤穂線・山陽本線Instagramフォトコンテスト 2025については、ご了承いただきました。

次第5 その他ですが、せっかくの機会ですので、ご発言いただきたいと思います。

梅田町長 昨年、利用促進のポスターを作成されていますが、どのようなコンセプトで作成されていますか。

事務局 より多くの方に JR を利用いただくことが目的で、昨年はフォトコンテストの写真に掲載させていただいております。

梅田町長 ポスターの写真が寂しく見え、乗ってみようと思えないポスターだと思います。乗らなければ廃線になりますというような伝わり方になりかねないと思います。電車も新しくなり、観光地もいいものがあるので、電車に乗って出かけてみようと思ってもらえるようなコンセプトでポスターを作成していただきたいと思います。

事務局 ご指摘の部分は、フォトコンテストの選定の際に留意させていただきます。

梅田町長 よろしくをお願いします。

牟禮会長 他にありませんか。
とくにないようですので、事務局からありますか。

事務局 今後、J R 西日本への要望を考えておりますので、各首長におかれましては、日程調整等のご協力を引き続きどうぞお願いいたします。
以上です。

牟禮会長 それでは、他にないようですので、東備西播定住自立圏域 J R 利用促進協議会第5回総会を閉会いたします。

皆様方には大変お忙しい中、暑い中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

引き続きご支援ご協力を賜りたいと思います。

J R への要望活動については、調整させていただきます。加えて、上郡高校を中心とした車両の混雑の件については、緊急に要望していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。